

全体ディスカッション

福島第一原発の廃炉と真の復興とは



八巻俊憲

CCNE福島原発事故部会

元福島県立田村高等学校教員

廃炉や復興に対する認識がちがう

- ☹️現状は「廃炉」ではなく、「事故処理」の段階
- ☹️「**30~40年で廃炉**」は**ムリ**、それでもいいつづけるのは**ウソ**
- ☹️住民にとっての**復興**とは、**ひとりひとりが将来を肯定できるようになること**
- ☹️事故前にはなかったモノ（住民の生活には無関係）を作ることではない
- ☹️住民にとって身近に感じられない
- ☹️むしろ**被害者切り捨て**の面も
- ☹️被害を受けたのに、なぜさらに追い詰められたり、苦しまねばならないのか？

時代遅れの原子力技術思想

- はじめは最先端技術？だった
 - もはや不完全な旧型技術、
いかに長持ちさせるかが課題
- 原子力三原則（公開・民主・自主）は守られてなかった
 - 都合の悪いことは隠す
反対されても勝手に決める
責任は取らない
- 時代遅れの技術思想
 - 大量生産、大量消費、大量廃棄
 - 上から目線、住民犠牲、「金目でしょ」主義

科学の考え方が変化した

◇平和利用初期の思想（1950年代）

何でも科学でなんとかなる、未来はバラ色
海は広い、うすめて流せばへっちゃら

◆科学の二面性（1960年代）

科学にはよい面（ex.成長）と悪い面（ex.公害）がある

◆科学的合理性と社会的合理性はちがう（1980年代）

予防原則：不確実なリスクに対してはあらかじめ「大事をとる」

◆リスク認識は価値判断である（1990年代）

リスクの分析は科学的であっても価値判断が含まれる

最終的には、私たちがどう生きたいかという価値判断に基づいて、民主的に決定すべきである

▲原子力の政策決定は住民不在で非民主的

▲平和利用の基本原則にも反する

◆環境倫理の3本柱（1990年代）

地球の一員として

1 自然の生存権

自然との共生

海も私たちも生きている

2 世代間倫理

未来世代への責任

将来の危険は水に流せない

3 地球有限主義

地球環境が優先

うすめて流しても海は有限

海洋放出は、環境倫理に反する

福島から伝えたいこと

次に原発事故が起こったら、
今の福島のようなことが
必ず起こります

おわり